

名称 [所在地]	重要 文化 財指 定	伝 建 特 定 物 件	文 化 財 登 録	景 観 重 要 建 造 物 等 他	建物概要	写真
旧乾家住宅 [神戸市東灘区]	○				乾汽船の創業者、乾新兵衛が昭和11年(1936)に建設した自邸。主屋は、RC造及び木造の2階建、寄棟造、赤色の棧瓦葺で、東端に車寄せを突き出す。内部は、東側を洋室、西側を和室とする。玄関ホールでの木材や石の質感の活かし方や階段の演出、応接室の様式的な重厚さは圧巻である。設計は関西の建築家を代表する渡邊節。	
香雪美術館 (旧村山家住宅) [神戸市東灘区]	○				朝日新聞の創始者村山龍平が御影の地に構えた大規模な邸宅の洋館で、明治42年(1909)の建築と伝える。設計は河合幾次、施工は竹中工務店。地形を巧みに利用し2階に玄関を設けた3階建とし、1・2階を石造風、3階をハーフティンバーの外観にまとめあげる。	
富永家住宅 [神戸市東灘区]			○	○	大正末期に開発された通称芦屋文化村と呼ばれる小住宅地に建つ洋風住宅。木材関係の仕事をしていた施主の富永初造の構想案をもとに馴染みの建築家ベイリーが設計し、大工吉田勝二郎が施工した。枠組工法の原型をなす作品で、近代住宅史上も貴重である。	
古澤家住宅 [神戸市東灘区]			○	○	13棟建てられた芦屋文化村住宅のうちの一つで、最も凝った意匠になる。複雑な平面形に対しハイピッチに屋根をかけた独特なデザインにまとめ上げている。関西における近代住宅史を語る上で貴重な作品である。設計は、ロシア人建築家ラディンスキー。	
神社家住宅 [神戸市東灘区]					倉敷紡績の社長であった神社柳吉が昭和10年(1935)に建てた木造2階建の自邸。主屋は、正面を洋風、奥座敷を日本建築とした和洋折衷住宅である。高級住宅を多く手がけた藤木工務店の設計・施工。	
旧高嶋家住宅 (甲南漬資料館) [神戸市東灘区]			○		甲南漬2代目の高嶋平介が自邸兼帳場として、昭和5年(1930)に魚崎郷に建てた住宅。RC造2階建の洋館と木造平屋建の和館からなる和洋館並列型住居であったが、現在は洋館部分が残し、甲南漬資料館として利用されている。設計は、神戸市の建築技師として多くの公共建築を手がけた清水栄二。塔屋のパラポラアーチが表現派を彷彿とさせ、内部もアールデコやデ・スティール風の斬新な意匠が取り入れられている。	

名称 [所在地]	重要 文化 財指 定	伝 建 特 定 物 件	文 化 財 登 録	景 観 重 要 建 造 物 等 他	建物概要	写真
翠嵐房 [神戸市東灘区]					川崎汽船社長が本山、岡本地区を見下ろす高台に大正2年(1913)頃に建てた自邸。洋館は、真壁造を基調とした大正期らしい軽快さを備え、切妻屋根を複雑に合わせた外観が特徴的。奥に平屋建の和館を配する。	
旧ハンター住宅 [神戸市灘区]	○				明治40年(1907)にイギリス人エドワード・ハンターが自分の住宅の洋館として建てたものであるが、これは新築でなく、明治23年(1890)に建てられた建築を移したものである。 英国ヴィクトリア朝風の様式を正しく伝えていて、明治時代洋風住宅として、特にすぐれたものである。(注、ハンターは神戸に住んだ企業家で彼がはじめた造船所は現日立造船の前身にあたる。)	
ヴォーリス六甲山荘 [神戸市灘区]			○		六甲山山頂近くに建つ木造平屋建の山荘。外壁は下見板張で、白色木製枠の引違窓を開ける。中廊下の両側に居間や寝室、和室等を配する。居間は眺望のきくテラスを備え、20畳大と広く、名栗仕上げの化粧梁や石組の暖炉などを有す。山荘建築の特色をよく伝える。	
小林家住宅 [神戸市中央区]	○	○			北野町の重要伝統的建造物群保存地区内に建つ洋館。コロニアル様式になり、典型的な玄関ホール式の平面をもつ。二つの異った形のベイ・ウィンドウを設けた側面の意匠や、玄関ホールの空間の扱いなどは秀逸で、神戸に残る洋館の中でも特に優れたものの一つ。	
旧ハッサム住宅 [神戸市中央区]	○				イギリス人ハッサムが明治35年(1902)に新築した住宅で、建築家はハンセル(Hansell)であった。神戸の外国人住宅のすぐれたものの一つである。	
旧トーマス住宅 [神戸市中央区]	○	○			ドイツ人の貿易商トーマスが建てた住宅で、設計はドイツ人デ・ランデという。建築面積二一七・八㎡、2階建、地下1階で、半地下の地階は石造、ペランダは木造、ほかに煉瓦造とする。ドイツ風近代様式の傾向の強い、重厚な意匠になるもので、神戸における洋館のなかでも独特の雰囲気を持ち、優れた遺例の一つである。	

名称 [所在地]	重要文化財指定	伝建特定物件	文化財登録	景観重要建造物等	建物概要	写真
旧小寺家厩舎 [神戸市中央区]	○				明治末年につくられた煉瓦造、2階建の西欧風民家の意匠をとり入れた厩舎で、河合浩蔵設計と伝えられている。1階は馬車庫と、馬小屋、2階は馬丁、御者の宿泊室になる。隅に廻り階段室の塔屋を、屋根に小屋根や屋根窓を設け、出入口や窓廻りに石材を配して変化をつけており、厩舎として遺例の少ないものである。	
旧神戸居留地十五番館 [神戸市中央区]	○				木骨煉瓦造、2階建で、海に面する南面両端にベジメントをつけ、2階を開放的なヴェランダとして正面性を強調していた。のちにヴェランダを室内に取り込んでいる。 一般的に保存状況がよく、ヴェランダ、中廊下や階段廻りの細部意匠にみるべきものがある。旧神戸居留地に現存する唯一の商館遺構として貴重である。	
ヴォルヒン邸 [神戸市中央区]	○				昭和初期の建設で、木造2階建、寄棟造葺瓦葺(塩焼)。西側に玄関ポーチ、バルコニーがあり、また東側にベランダがある。	
上久保邸 [神戸市中央区]	○				昭和初期の建設で、木造2階建、寄棟造葺瓦葺。1階は両開きのヨロイ戸付窓、2階は引違窓として、2階窓下に蛇腹を回す。特徴的なデザインとなっている。	
キャサリン・アンダーセン邸 [神戸市中央区]	○				明治32年(1899)の建設で、木造2階建、寄棟造葺瓦葺。敷地北寄りに主屋を建て、北面東端に張出して角屋を設け、その東面に玄関ポーチを設ける。主屋南面は1・2階ともベランダで、東面は玄関ポーチに続いて半円形及び出隅のある張出窓を付す。	
旧アボイ邸 (イタリア館) [神戸市中央区]	○				大正年間の建設で、木造2階建、切妻造スレート葺。主屋の西から南にかけて庭をとり、北に付属屋をもつ。主屋は西面に玄関ポーチを設け、東面にベイウインドウを付す。南面の大きな切妻面にはハーフティンバーの意匠を見せる。	

名 称 [所在地]	重要 文化 財 指 定	伝 建 特 定 物 件	文 化 財 登 録	景 観 重 要 建 造 物 等 他	建物概要	写真
旧アメリカ領事館官舎 [神戸市中央区]		○			明治31年(1898)の建設で、木造平屋建、寄棟造棧瓦葺。敷地の南側は高い石垣となり、南面中央に階段を設ける。敷地北側に主屋を建て、主屋の西に付属屋がつく。	
旧スタデニック邸 [神戸市中央区]		○			明治20年代の建設で、木造2階建、寄棟造棧瓦葺。主屋の南に広く庭をとり、庭の東面に門を開く。1階南面をベランダとして、中央に入口を設ける。	
旧ドレウエル邸 [神戸市中央区]		○	○		大正4年(1915)の建設で、木造2階建、寄棟造棧瓦葺。敷地東側に門を開き、西側に庭をとる。主屋の間取りは広間型で1、2階の南側に複柱式ベランダ、東西面にはベイウィンドウを設ける。主屋北面の東隅に付属屋がとりつく。	
旧ヒルトン邸 (旧パナマ領事館) [神戸市中央区]		○			明治末期の建設で、木造2階建、寄棟造棧瓦葺。敷地南側に高い石垣を設ける。主屋南面にはガラス窓を嵌める。ベランダを設け、東よりに角屋を張り出して玄関ポーチとする。西面にベイウィンドウを設け、背面に付属屋がある。	
旧フデセック邸 (英国館) [神戸市中央区]		○			明治42年(1909)の建設で、木造2階建、切妻造棧瓦葺。敷地北側に主屋をとり南側には庭を配す。また主屋と東側の付属屋は2階を渡り廊下で結ぶ。主屋西面北寄りに玄関ポーチを取り、南面東半分を南に張り出してベランダを設ける。	
旧ボリビア領事館 [神戸市中央区]		○			明治30年代の建設で、木造2階建、寄棟造棧瓦葺。敷地の南・西は道路に面する。西面北端に玄関ポーチを設ける。	

名 称 [所在地]	重要 文化 財指 定	伝 建 特 定 物 件	文 化 財 登 録	景 観 重 要 建 造 物 等 他	建物概要	写真
旧モッシュ邸 [神戸市中央区]		○			西棟、東棟は大正末期の建設で、木造2階建、南側切妻造・北側寄棟造S字瓦葺。主屋南側に切妻屋根の角屋を出し、1階を吹放しの玄関ポーチとする。2階を建具入りベランダとする。2棟は左右対称平面をもつ同形式の建物である。	
神戸華僑総会 [神戸市中央区]		○			明治42年(1909)頃の建設。木造2階建、切妻造棧瓦葺。敷地南側は道路から約5mの高い石垣となり、東側石垣に沿って階段を設ける。主屋の南に庭をとり、北は付属屋と渡り廊下で連絡し、敷地の北側小路境の煉瓦塀に裏門を設けている。	
シュウエケ邸 [神戸市中央区]		○			明治29年(1896)の建設で、設計者はハンセル。木造2階建、切妻造棧瓦葺。敷地北側に寄せて主屋と付属屋を東西に並べる。外観はスティックスタイルの技法を用いる。南に庭を配し、南面中央にベランダ、左右にベイウィンドウを対称に配置している。	
高木・渋谷邸 [神戸市中央区]		○			昭和4年(1929)の建設。2戸建て、各木造2階建、寄棟造セメント瓦葺。主屋北側に和風2階建の付属屋が主屋と渡り廊下で接続している。	
丹生邸 [神戸市中央区]		○			明治39年(1906)の建設で、木造2階建、寄棟造棧瓦葺。敷地北側に建ち、東北に建つ和風住宅の主屋とは渡り廊下で結ばれていた。洋館の南側に庭があり、南側道路とは煉瓦塀で仕切られ、かつては洋館に通じる門が開いていた。	
チャン邸 (サッスーン邸) [神戸市中央区]		○			明治25年(1892)の建設で、木造2階建、寄棟造棧瓦葺。敷地は南東隅に薬医門を開き、塀は尖頭板オイルペイント塗。敷地北面を一段高くして、東に主屋、西に付属屋を置く。主屋は1階中央に小庇付の入口を設け、東面にはベイウィンドウを付し、よろい戸付窓を開ける。	

名 称 [所在地]	重要 文化 財指 定	伝 建 特 定 物 件	文 化 財 登 録	景 観 重 要 建 造 物 等 他	建物概要	写真
鄭邸 [神戸市中央区]		○			明治末期から大正初期頃の建設で、木造2階建、寄棟造棧瓦葺。主屋北側に付属屋があり、渡り廊下で結ぶ。	
寺西邸 [神戸市中央区]		○			昭和初期の建設で、木造2階建、寄棟造フランス瓦葺。南面にガラス窓を嵌めたベランダがある。	
パラスティン邸 [神戸市中央区]		○			大正3年(1914)の建設で、木造2階建、寄棟造棧瓦葺。西側道路に面して庭を設ける。主屋西面北寄りに玄関ポーチを設け、玄関から南側は閉鎖ベランダとする。主屋東北隅に付属屋をつなぐ。	
門邸 [神戸市中央区]		○			明治28年(1895)の建設で、設計者はハンセル。木造2階建、切妻造棧瓦葺。北側道路に接する。主屋の東側に付属屋があり、南側に広い庭をとる。切妻部分にスティックワークの手法を用いている。	
山田邸 [神戸市中央区]		○			明治40年(1907)の建設で、木造2階建、寄棟造棧瓦葺。敷地は不整形で東西に細長く、主屋平面も台形。主屋西面中央に玄関を設け、左右に大きなベイウインドウを設ける。外壁は人造石洗出し目地切仕上とする。	
林邸 [神戸市中央区]		○			明治33年(1900)の建設で、木造2階建、寄棟造棧瓦葺。敷地西側が道路に面し、モルタル塀で囲う。門は南側の路地に設け、主屋を北に建て、南に庭をとる。	

名称 [所在地]	重要 文化 財 指定	伝 建 特 定 物 件	文 化 財 登 録	景 観 重 要 建 造 物 等 他	建物概要	写真
レイン邸 [神戸市中央区]		○			明治33年(1900)の建設で、木造2階建、寄棟造棧瓦葺。南北に長い敷地で南に門を設ける。主屋は東に寄せて建ち、間取りは片廊下形式で西側1階にベイウィンドウを設けている。主屋北側に付属屋をつなぐ。	
旧ムーア邸 (神戸市中央区)		○			明治31年(1898)の建設で、木造2階建、寄棟造棧瓦葺。敷地南側は通りに面して高い石垣となり、中央に石階段を設けて門を開く。敷地の北側に主屋を建て、背面の付属屋と渡り廊下で結ぶ。	
うろこの家 [神戸市中央区]		○			北野山本地区を代表する異人館のひとつで、伝建地区の外延、六甲山麓の山際の高いところに位置する。外壁に貼りまわされた天然スレートが鱗状に見えることから「うろこの家」の愛称があり、円形の展望塔とあいまって観光客の人気を集めている。	
李及び山下家住宅 [神戸市中央区]		○			南斜面に南面して建ち、敷地南東に道路が取り付く。桁行12m、梁間8mの規模で、木造2階建、寄棟造、瓦葺とする。中央に玄関ホール及び階段を設け、両脇に居室を配する。外壁をモルタル塗とし、丸窓、上げ下げ窓を用いるなど、近代の建築要素を多用する。	
旧池長家住宅 (紅塵荘) [神戸市中央区]					神戸の資産家であり美術品蒐集家であった池長孟が、昭和3年(1928)に神戸中心市街地東側の高台に建てた自邸。外観は当時流行のスパニッシュ・ミッション様式。設計は小川安一郎。斜面地に立地するこの建物のファサードは、連続アーチ開口をもつベランダ(1階)、鑄鉄製窓柵のついたアーチ窓(2階)、桁で持ち出されたバルコニー(3階)と陰影に富み、玄関に至る石張の階段等とあいまって、エキゾティシズムを漂わせる。	
旧F. ビショップ家住宅 (東天閣) [神戸市中央区]					ドイツ系アメリカ人ビショップが明治27年(1894)、北野に建てた自邸。他の多くの異人館と同じく木造2階建、寄棟造、棧瓦葺、外壁は下見板張り、オイルペンキ塗りで、ベランダを配したコロニアル様式。昭和20年(1945)に中華料理店に改装し、ベランダに窓がつけられた。設計はイギリス人建築家ガリバーと伝える。	

名称 [所在地]	重要 文化 財指 定	伝 建 特 定 物 件	文 化 財 登 録	景 観 重 要 建 造 物 等 他	建物概要	写真
旧榎橋家住宅 [神戸市長田区]			○		木造2階建、セメント瓦葺で、外壁をスペイン壁風とする洋館。1階には食堂・台所・居間・和室・サンルームを、2階には居室4室を設ける。変化に富んだ窓配置や屋根構成、外壁随所にタイルを用いるなど、大正～昭和期のいわゆる文化住宅の好例である。	
西尾家住宅 [神戸市須磨区]		○			神戸の実業家西尾類蔵が大正8年(1919)に建てた住宅。煉瓦造一部RC造の地上2階地下1階建てで塔屋をもつ。1階の西半部を接客用、東半部を居住用の洋間とし、2階には座敷を設ける。複雑な屋根や変化に富む外壁に特徴がある。明治後半から昭和初期にかけて須磨に盛んに建てられた大規模で良質な洋風住宅の好例。設計は設楽建築工務所による。	
移情閣 [神戸市垂水区]		○			神戸を中心に活躍した華僑の呉錦堂が、舞子ヶ浜にあった別荘の一部として、大正4年(1912)に建設した。 八角三階建という類例の少ない形式ながら、端正な比例構成を持ち、内部も各階毎に異なる意匠でよくまとめられ、高く評価できる。また、最初期のコンクリートブロックを用いた建築で、その構法や技術を伝える遺構としても重要である。	
旧グッゲンハイム邸 [神戸市垂水区]					明治大正期に神戸に滞在した貿易商のグッゲンハイムが、明治45年頃に塩屋の海を臨む高台に建てた自邸。木造2階建て、1・2階にそれぞれ設けられた5連アーチのベランダを特徴とするコロニアルスタイルの西洋館。設計はハンセルと考えられる。	
旧武藤邸 (旧鐘紡舞子倶楽部) [神戸市垂水区]					鐘淵紡績の中興の祖といわれた武藤山治が、明治40年(1907)に舞子浜に建てた別荘。木造2階建コロニアル様式の洋館で、円形のバルコニーをもつ清楚で品格のある建物として注目される。設計者は大熊喜邦。本四架橋建設に伴う移築の後、平成21年、兵庫県が寄贈を受けて県立舞子公園に移築保存。	
鶴崎家住宅 [神戸市]					住友営繕の礎を築いた野口孫一の設計で明治41年(1908)に建てられた。和洋館並列型住居で、洋館は木造2階建、切妻造、寄棟造の複雑な屋根形状で洋瓦葺。内部のステンドグラスや細部意匠にアール・ヌーヴォーの影響がみられる。	

名称 [所在地]	重要文化財指定	伝建特定物件	文化財登録	景観重要建造物等	建物概要	写真
旧辰馬喜十郎住宅 [西宮市]	○				<p>南辰馬家初代当主喜十郎が大工山下某に命じ、神戸英国領事館を模して建てたものと伝える。外見は質素だが、ベランダの柱列、窓回りの額縁、両開き鎧戸、蛇腹、軒下の持送りなど、この種の建築の特色をよく伝えている。特に解放されたベランダと屋上の2本の煙突は、この建築を特徴づける。擬洋風の住宅建築の一つで、当時の新しい生活様式をうかがうことのできる貴重な遺構。</p>	
旧山本家住宅 [西宮市]			○	○	<p>阪急沿線に開発された郊外住宅地に建つ。通り西側の敷地中央に東面して寄棟造葺瓦葺、木造2階建を設け、その北に平屋建の台所等を付ける。外壁はモルタル掻き落とし仕上げで、正面は柱等を現し、腰石貼とする。軽快かつ落ち着いた意匠でまとめた都市近郊住宅。</p>	
松山大学温山記念会館 [西宮市]			○	○	<p>西面敷地中央の北寄りに建ち、東西20m、南北15mの規模で、RC造2階建、寄棟造、スパニッシュ瓦葺とする。表門からやや奥に建ち、正面に車廻しを付け、外観を洋風意匠でまとめ、堂々とした構えとする。昭和初期の有名建築家の建てた洋館として貴重。</p>	
学校法人関西学院 外国人住宅1号館 [西宮市]					<p>昭和4年(1929)に上ヶ原キャンパスに移転した関西学院の外国人教師のための住宅。木造2階建、屋根は切妻造、赤瓦葺き。外壁はスタック仕上げのスパニッシュ・スタイルの洋館である。1号館は迎賓館として使用されている。設計はヴォーリズ建築事務所。</p>	
神戸女学院大学 外国人教員住宅 (ケンウッド館、エッジウッド館) [西宮市]	○				<p>昭和8年(1933)に岡田山キャンパスに移転した神戸女学院の宣教師館。3棟のうち、ケンウッド館、エッジウッド館が現存する。ともに、木造2階建、切妻造、赤瓦葺きで、外壁は校舎との統一感をもつスタック仕上げのスパニッシュ・スタイルの洋館。ケンウッド館は、正面にアーチの連なる玄関ポーチとバルコニーを配する共同住宅。エッジウッド館はアーチ型のドアをもつ瀟洒な住宅。設計はヴォーリズ建築事務所。</p>	
旧山邑家住宅 (淀川製鋼迎賓館) [芦屋市]	○				<p>傾斜地を利用して段状に建てた鉄筋コンクリート造、4階建の住宅で、フランク・ロイド・ライトの原設計になる。高低ある平面、独特の意匠などライトの作風をよく表わしており、日本近代建築史の上で重要な作品である。</p>	

名称 [所在地]	重要文化財指定	伝建特定物件	文化財登録	景観重要建造物等	建物概要	写真
旧山口家住宅 (滴翠美術館) [芦屋市]					山口銀行を興した山口吉郎兵衛が、昭和8年(1933)に芦屋川の支流に沿う高台に建築した自邸で、中央に塔屋をもつRC造、地下1階、地上2階建。その後、滴翠美術館として転用された。設計は安井武雄。安井の手がけた住宅中最大で、大陸的な雰囲気をもっている塔屋が印象的。	
正司家住宅 [宝塚市]			○		阪急宝塚線沿線の住宅地に建つ和館洋館併存住宅の洋館。斜面地で南側一部に地階を設けた木造2階建で、ベル形ドーム屋根や袴腰形屋根、軒下のタイル市松模様張など大正期特有のジャーマンセセッションの秀作。設計は宝塚ホテルなどを手がけた古塚正治。	
中央図書館桜が丘資料室 [宝塚市]			○		西宮市との市境近くの住宅地に建つ。寄棟造、S字瓦葺、木造2階建の洋風住宅で、腰を下見板張とし、ベアの持送り支持する玄関庇、一枚ガラスの上げ下げ窓、西面のベイウィンドーなどが特徴ある外観をつくる。カリフォルニア大学出身の建築家川崎忍の設計。	
旧平賀家住宅 [川西市]			○		英国に留学経験のある施主が英国のカントリーハウスにならぬ建てたもので、設計が大林組の松本兎象、施工が鴻池組である。屋根勾配、出窓、暖炉、煙突等の各所にその様子が表れており、19世紀末から流行する本格的な洋風邸宅の大正期における好例といえる。	
旧九鬼家住宅 [三田市]		○			三田藩の家老職にあった九鬼家に養子として迎えられた九鬼隆範が自ら設計した自邸。1階にみられる伝統的な和風の意匠と、2階のペランダまわりの洋風意匠との対比が特徴であるが、新しい素材以外はすべて伝統的な大工技術、左官技術によってできており、1室のみの洋室も京唐紙を天井・壁紙に使う等和室に近い。日本人が土着性の強い技法を用いて日本人のために建てられた明治前期の住宅として貴重である。	
前田家住宅 [三田市]			○		木造2階建、棧瓦葺、外壁はもとモルタル砂利洗出し仕上げ。南側壁面に半円アーチ窓をならべ、北東隅の2階床を持送とし、屋根に赤瓦を葺くなど、スパニッシュ風の外観を示す。阪神間では昭和初期にスパニッシュスタイルが流行するが、その早い事例といえる。	